

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1175300282		
法人名	株式会社寿エンタープライズ		
事業所名	グループホーム北本		
所在地	埼玉県北本市北本宿195-1		
自己評価作成日	平成25年 9 月 29 日	評価結果市町村受理日	平成 25年 12月 5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/11/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&Jigvovocd=1175300282-00&PrefCd=11&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88逸見ビル2F		
訪問調査日	平成25年 10 月 29 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・目の前が雑木林、近くに緑地公園や田園が広がるという自然環境の中、庭で野菜や草花を育て、季節の移り変わりを感じていただいたり、金魚を飼育する事を通し、本人のやりがいや精神的な穏やかさを保てる様援助させて頂きます。
 ・併設のデイサービスとの交流や地域行事への参加、外出や外食など心身共に笑顔でいられ、張りのある生活が送れる様支援させて頂きます。
 ・入居者の方達個々を尊重し、入居者ご本人やご家族に一生此処で暮らしたいと思って頂ける施設にしたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大きな幹線道路から少し入った雑木林の残る住宅地の一角に位置し、デイサービスと併設した2階建て2ユニットの事業所である。近隣の小学生が事業所見学に来たり、手品や歌を披露してくれたり、利用者の楽しみとなっている。ボランティアの受け入れ(踊り・歌・オカリナ・バイオリン等)も積極的に働きかけている。共用空間は日当たりが良く清潔感があり、窓から見える家庭菜園では季節の花や野菜を育て収穫している。食事はすべて職員の手作りで、品数も多く、美味しいメニューが提供されているとともに、食事の準備が利用者の五感を楽しませ、穏やかに気持ち良く過ごせる空間となっている。職員の笑顔と温か味のある事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の入職時には、理念を説明し、各ユニット・玄関口・休憩室等の職員が集う場所に掲示しています。	目につきやすい場所に掲示し、職員一人ひとりが常に理念に基づいたケアを実践する様声かけやミーティング等で周知し、理念に沿ったケアに繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の行事に参加したり、ホームの行事に近所の方々をお誘いしたり関係づくりに努めています。また、日々の散歩を通して近隣人達が挨拶や声を掛けて下さる事も増えてきています。	自治会に加入し、ボランティアの受け入れを積極的に行うと共に、小学生の受け入れを年2回行っている。事業所の行事に近隣の方の参加も得られ顔なじみの関係が出来、地域の一員として交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域事業(運動会・芋ほり等)へ参加することで、グループホームや認知症との接し方にも徐々に理解して頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政・自治会会長・民生委員・包括をはじめとして入居者の家族の皆様の意見や情報の交換ができています。	年6回、家族・自治会長・民生委員・行政・包括等の参加の下、状況報告をする中で沢山の意見や要望また助言が得られ、有意義な場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からないと市役所に直接出向きアドバイスを受けています。また市役所主催の地域密着型事業所連絡会に参加する等して連絡を図っています。	市からの実情やサービスの取り組み状況、確認事項、困難事例等についてアドバイスや情報提供を得、連携を図る様にしている。年4回開かれる地域密着型連絡協議会に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	接遇マナー向上委員会を通し、職員間で話し合い、日々のケアに取り組んでいます。	接遇マナー向上委員会を中心に事業所内で研修を行い、禁止の対象となる行為を正しく理解し安全面に配慮しながら、抑圧感のない支援に努めている。帰宅願望の強い場合は散歩や言葉かけの工夫等で対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	人生の先輩として尊敬し、かつ各々の現状を踏まえ、言葉遣い等に気を付ける事を職員全員が心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は必要とする入居者がいないため活用されていません。ここに学習し、要支援時に活用していきたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に明示されており、契約時に家族・本人に説明をし同意も得られています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時には内部および外部への相談窓口を記載していると共に、面会時や催事の際になるべく各家族と話をし意見を吸い上げ、可能な事は運営に反映する様努力しています。	ケアプラン作成時や来訪時、状況報告の中で聞き取るようにしている。意見や相談事項については検討し個々に対応すると共に運営にも反映させている。常に意見が出やすい雰囲気づくりに努めている。	年1回家族会を開催しているが、今後定期的な開催を行い、更なる家族との交流や意見の反映が図れるよう期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングでは、全参加者に一言でも発言できる機会を設けています。また外出や行事等は職員に主体性を持って企画立案を行っています。	職員の意見は、会議や日々のケアの中で聞き取っている。会議で話し合った意見を反映させ、ケアの統一を心掛けている。管理者は日頃からコミュニケーションを図り、職員が自主的に仕事をできるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各利用者毎に担当者制を導入し仕事に対する責任感ややりがいを得てもらうよう工夫を施しています。更には年間休日120+有給休暇、希望休や諸事情を踏まえてシフトを作成する等融通性を以て就業環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	希望外部研修は許可制とし、伝達公衆を義務付け、知識や情報を共有しています。OJTでは、職員同士でよりよい方法を考え合う事で質の向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市役所主催の交流会に参加し、情報交換やケアについて相談などを気軽に話し合える状況にあり、施設単独ではなく地域全体でサービス向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	普段から何でも話せる雰囲気作りに気を配り、表情や行動を観て声がけし話を聞くよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	いつでも気安く話せる雰囲気作りをし、色々な話を傾聴し、関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時の要望等を踏まえ話を良く聞き、医療的な事も含めてその時々に必要な事を把握しサービスに反映できる様努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活していく上での家族的雰囲気を大事にし、お手伝いして頂ける事はお願いしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	小さな事も相談したり足を運んで頂きやすい関係作りを心がけています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望や機会があればお勧めし、繋がりを持ち、満足感を得られる様支援します。	家族との関係を大切にするため、定期健診の際には前日に自宅に泊まったりしている。 職員は、電話やメールの取次ぎを行い、関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	円滑にコミュニケーションが取れ、嫌な思い等をする事がない様にスタッフが間に入る様努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じフォローや相談ができるよう努めています。亡くなった方には一周忌に花束を送らせて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に伺う事と、細かな様子観察や情報の共有により把握できる様努めています。	個別の散歩や入浴時等何気ない話の中で思いを聞く事が有る。買い物や食べ物等の要望に、可能な限り想いを叶えてもらえる様努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、関わってこられた方からできる限りの情報を聞いています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人や家族、関わって来られた方からできる限りの情報を聞いています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	問題がある時や、より心身共に快適に生活していける為に、本人や家族の意向、アセスメント、観察、モニタリングそれぞれを基にかフェレンスをを行い介護計画の作成をしています。また、介護変更の必要な方には随時行っています。	基本情報やアセスメントを基に暫定プランを作成し、担当者会議、ミーティングで話し合い、家族の意見を反映させ利用者主体のプランを作成している。日々の状況を記録し必要に応じ検討し見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子以外に、変化がある時には良く観察し細かい記録・情報の共有に努め実践しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望や必要性、家族の状況や希望により無理のない範囲でできる限りの対応を心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアを受け入れたり、地域行事に参加したりして地域資源を楽しんでいただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回の訪問歯科、月2回の往診があり、歯科では日中、往診は昼夜いつでも連絡が取れるようになっています。	歯科・内科ともに訪問診察があり、家族の意向で選択することが出来る。併設のデイサービスに日中は2名の看護師がおり、緊急時には対応が出来る。医療機関とも常時連絡が取れるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護を行っており、個々の問題点を報告しアドバイスを受けています。また、主治医との連携もとって頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はスタッフが同行し詳細な説明をしています。また、お見舞い時は情報を得ています。退院時はサマリー等で情報を得ています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や医師と十分話し合い、家族の思いや考え方を把握しケアの統一を図っています。	利用開始時重度化や終末の対応については説明されている。利用者の状況変化により、医師、看護師、家族、職員で話し合い、共に協力しながら事業所として出来る範囲内での支援する体制づくりをされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生に備え研修に行ったり、マニュアルを作成し対応できるよう努力しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防署の方に来て頂き防災・避難訓練を実施。いろいろな場面を想定した対策を考えると共に自治会の方達にも呼びかけ一緒に行って頂いています。	年2回、消防署の立ち会いの下でデイサービスと協力して実施している。その際、家族・自治会長・民生委員等の参加協力を得ている。消防署は目と鼻の先にあり、安心感も多分にある。	日中に関しては、デイサービスも隣接し職員も多く心配はないが、夜間は、職員2名での対応を考え、夜間想定訓練実施が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	更衣、入浴、オムツ交換時、排泄等扉を閉める。関わり方は個別的に尊重を忘れないよう心がけています。	利用者の名字に「さん」づけを基本としている。馴れ合いになっても言葉かけや入浴、排せつ介助時等、プライバシーを損ねない対応に心掛ける様、職員間でも日々周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションや日々の会話の中で、何でも話せる様な場面作りを大切にしています。また洋服を選んだり、水分補給時には冷・温どちらか等声がけし自己決定して頂いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	健康に生活していられる事を配慮しながら個別な希望やペースを大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれや身だしなみに関心を持てる様に整え、マニキュアをしたり等楽しんで頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お手伝いをして頂ける方にはお願いし感謝をし、食べたい物の希望があれば買い物や外食で対応しています。	食事は三食共に手作りで、利用者には出来る事を手伝って頂いている。食べたい物の希望を聞き、出前や外食に行き、行事の際には、そうめん流しやボランティアの手打ちそばを食している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べやすいように刻んだりミキサー食にしたり、飲みやすいようにトロミをつけたりと個々に形態を変えています。また水分を取りにくい時はゼリーを使用するなど対応していますが、個人的にはカロリーを取り過ぎないように気をつけています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	見守りや一部介助、全介助で、その方に応じたケアを行っています。また希望者は週1回の訪問歯科時にケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限り布パンツやリハパンを使用し、排泄パターンを把握し、トイレ誘導、声かけを行っています。また立位の困難な方でも立ち上がり運動をしトイレを使用できる様支援を行っています。	殆どリハビリパンツ利用で、一人ひとりに沿った時間帯でトイレ誘導し、生活習慣やその人の残存機能を維持するため出来るだけトイレでの排泄支援に努めている。夜間のみポータブルトイレを使用する利用者はいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体を動かす事や、しばらくトイレに座って頂いたり、腹部マッサージ、水分、ヨーグルトを摂り、下剤は負担がかからない様調節しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調やタイミングを考慮しつつ、気持ちよく入浴して頂いています。全介助の方には2人対応で本人にとってなるべく負担がかからないように入ってもらっています。また足浴・清拭等も取り入れています。	週3回を基本とし、身体状況や希望で柔軟に対応している。拒否の方には声かけを工夫し入浴して頂けるよう支援し、清潔保持に努めている。足浴・清拭で支援する場合もある。利用者により職員2名での対応もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や気分に応じ運動や歩行、また夜間の安眠を保てる程度の休息を。よく眠れない時には安定剤等を少量から試しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の内容と変化。体調の変化を良く把握し、安全に正しく服薬して頂けるように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人個人のできる事をお手伝い頂き、感謝し、外出等で変化を。また日々の関わりや会話、レクリエーションでも楽しみや喜びのある暮らしの支援を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望がある時には外出し満足感を得られる様支援しています。また家族が面会時に散歩がてらお茶飲みに行かれています。	月に1回は、デイサービスの車を利用し、花見やドライブに出掛けている。近隣には広場や林があり、利用者の体調も考慮し、気分転換や外気に触れる機会を持つように努めている。デイサービスの行事の際にも利用者が参加し、楽しい時間を過ごしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方は自分で。時々お金が心配になる方には、小額をお預かりし、希望時に確認して頂いています。希望があれば買い物に行きお金を使う支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話、メール等の介助をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に、使用しやすい様、心地良く清潔を保てる様心がけています。また庭の花々や木々に目が行くよう声がけもしています。	居間からは花壇や家庭菜園が見える。季節感ある装飾品や写真が飾られ、明るく快適に過ごせる配慮がされている。水槽には金魚が泳ぎ、餌やりが利用者の仕事となっている。食事の時間は音や匂いで五感を刺激し、生活感ある家庭的な雰囲気を醸し出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごせる様、また相性の良い方同士、大人しい方に負担がかかってしまわない様席や雰囲気に配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や安心する物を、本人や家族にレイアウトをお願いし、心地よく過ごして頂ける様にしています。	居室入り口は、1階は花・2階は鳥の写真が飾られ、その下に名前が表示されている。仏壇や整理タンスが置かれ、以前の生活が継続できるよう愛用品や思い出の写真等が持ち込まれ個性を感じる部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に配慮しつつ、持っているものを生かしていける様に、危険な物は目隠ししたり収納しています。また居室やトイレ等は名前を貼ったりしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の入職時には、理念を説明し、各ユニット・玄関口・休憩室等の職員が集う場所に掲示しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の行事に参加したり、ホームの行事に近所の方々をお誘いしたり関係づくりに努めています。また、日々の散歩を通して近隣の人達が挨拶や声を掛けて下さる事も増えてきています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域事業(運動会・芋ほり等)へ参加することで、グループホームや認知症との接し方にも徐々に理解して頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政・自治会会長・民生委員・地域包括支援センターをはじめとして入居者の家族代表の方達の意見や情報の交換ができています。その都度検討し実行するよう努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営上で分からない事があった際は市役所に直接出向きアドバイスを受けています。また市役所主催の地域密着型事業所連絡会に参加する等して連携を図っています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	接遇マナー向上委員会を通し、職員間で話し合い、日々のケアに取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	人生の先輩として尊敬し、かつ各々の現状を踏まえ、言葉遣い等に気を付ける事を職員全員が心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は必要とする入居者がいないため活用されていません。個々に学習し、要支援時に活用していきたいと思いをします。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容を事前に開示した上で契約に臨み、契約時には不安事項や不疑問点、重要事項を中心に十分な説明を行い同意を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書に内部及び外部の相談窓口を記載していると共に、面会時や催事の際になるべく各家族と話をし意見を引き上げ、可能な事は運営に反映する様努力しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングでは、全参加者に一言でも発言できる機会を設けています。また外出や行事等は職員に主体性を持って企画立案を行って貰っています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	利用者毎に担当者制を導入し仕事に対する責任感ややりがいを得てもらおうよう工夫を施しています。更には年間休日120+有給休暇、希望休や諸事情を踏まえてシフトを作成する等融通性を以て就業環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に希望する外部研修は許可制とし、受講後の伝達講習を義務付け、知識や情報を共有しています。OJTでは、職員同士でよりよい方法を考え合う事で質の向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市役所主催の交流会に参加し、情報交換やケアについて相談などを気軽に話し合える状況にあり、施設単独ではなく地域全体でサービス向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族の意向や思い、また話を参考に、本人との会話の回数を多く行う事で顔見知りの関係を築き、話し易く安心出来る環境作りを行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望を伺い、気持ちを理解し、分かりやすい言葉で説明する等、関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療も含め、どのような支援が必要なのか、本人や家族の話を良く伺い、素早い対応ができる様努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	どのような場面においても、自然な関わり合いとお互いを助け支えあう関係を築ける様な関係づくりに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係を理解し、面会時や行事への参加を通じて一つでも多くの情報を共有し、本人を支えていける様関係づくりに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人が気軽に来て頂ける様な環境作りを心がけたり、希望に応じて外出の支援等行っています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	カラオケ、ぬり絵他、頭・体の体操や共同作業を行う事により、自然と仲間意識ができ、お互いを支えあい思いやる気持ちが生まれる様努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行事にお誘いしたり、定期的によりや電話などの他、必要に応じてフォローや相談ができる様努めています。亡くなった方には一周忌に花束を送らせて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に話しを伺ったり、困難な時は表情、会話等で把握し、職員同士話し合い希望に副える様努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、関わって来られた方からできる限りの情報を聞いて把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録を通じて得た一人ひとりの生活リズムや心身の状態等を判断基準にしたうえで、全職員が可能な限り利用者に寄り添った介護を提供する事で些細な変化も見流さない様に細心の注意を行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングやカンファレンスを基に本人や家族の意見を伺い介護計画を作成し、必要な方には随時変更しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づいた事、ケア内容等分かりやすい様に記録に残し、課題や実践状況等職員同士情報を密にし、介護計画に活かせる様努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院の付き添いや買物の同行、また家族の送迎等その時々に応じ柔軟に対応をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア等外部資源を積極的に受入れ、地域社会との繋がりを大切にし、楽しく暮らせる様に支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回の訪問歯科、月2回の往診により医療支援を行っていると共に、良好な関係を築いています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護にて相談、個々の状態に応じ適切な指導を受けています。また主治医のクリニック所属の看護師なので医師との連携もうまくとれています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時介護サマリー等で情報交換を行っています。また家族と共に担当者会議の場を設け、退院後も安楽な生活が送れるような体制作りも行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や医師と十分話し合い、家族の同意を得ながらケアの統一、適切なケアを行っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生に備えて研修を行ったり、マニュアルを作成し、対応できる様努力しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の方に来て頂き防災訓練を実施したり、素早く避難ができる様色々な場合を想定した対策を考えると共に自治会の方へも呼びかけ理解を深めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に人格を尊重し、その方に合った声かけをしています。また、トイレ誘導等では特にプライバシーを損ねない様な言葉かけや環境作りに努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で信頼関係を築き、何でも話せるような雰囲気づくりをしており、やりたい事等お聞きしています。また入浴時は洋服選びを、手伝い等は自分の意思で決めて頂くなどしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムやペースを大切に、どのように過ごしたいのか本人にお聞きし、ご希望に副える様な支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を一緒に選んだり、マニキュアやお化粧をする等潤いのある生活を送れる様支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューを書いて頂いたり、野菜の皮むきや食器拭き等一緒に行っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量・形態で対応していません。食欲の無い方には主治医の指示を仰ぎ栄養補助食品等を提供し、栄養バランスを考え、柔軟な対応を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけする等その方に合ったケアを行い、口腔内の清潔保持を行っています。また希望者には週1回の訪問歯科にてケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限り布パンツやリハビリパンツを使用し、排泄パターンを把握し、トイレの声がけを行っています。困難な方にも一部介助および全介助にて排泄支援を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘しやすい方には乳製品を多く摂って頂き、適度な運動も行っています。個々の排泄チェック表を作成し予防と対応をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調をチェックし無理のない入浴を行なっています。また希望に副える様に入浴時間を工夫したりその方にあつた入浴を心がけています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況や希望に応じ日中に休息を取って頂いたり、安眠できる様空調等にも気を配り一人ひとり安心して眠れる様支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効果や目的を理解し、変化が現れた場合は医師に伝える等安全に服薬して頂けるよう支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる事をスタッフと一緒に等役割を持って頂いたり、気分転換として外出、外食の機会を作り、楽しい日々が送れる様支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に副って外出を支援しています。買物や美容室、お墓参り他出かけられる様全面的に協力をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の管理能力を踏まえ、家族と相談し必要な時にはお金を使える様支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、電話や手紙のやり取りができる様支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よく生活できる様環境整備を行っています。居間や廊下等に季節に合った飾り付けを行い四季を感じて頂ける様な工夫をしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	のんびり、ゆったり過ごして頂ける様に、席順に配慮したりしています。またテレビを観たり会話を楽しんだり気持ち良く生活が送れるような空間作りをしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や好みの物を置いて頂き、居心地良く過ごせる様配慮しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体の不自由な方にも安全に移動して頂けるよう物の配置を考えたり、トイレの場所や使い方が分かる様に紙に書いて貼る等工夫をしています。		